

第66回「ハートミーティング」意見交換の内容について 「京（みやこ）の小路プロジェクト」のメンバー

★市長からのコメント

- 「みっけ隊」アプリ（※）の開発に向けて、職員の皆さんが取り組んだことには、今のまちづくりに大事な市民協働の要素がたくさん入っていると感じた。まず、市民の皆様が自分の住むまちづくりに関心を持つ。限られた予算の中で優先順位を考え行政にできないことは自ら行動する。意識の高い市民の皆様が興味のない市民の皆様を巻き込み影響し合っていく。そんな素晴らしい取組を進めてくれている。

- 本市の、安心・安全なまちづくりや、防災・減災といった分野では、多くの建設局の技術職職員が活躍し、けん引してくれている。また、建設局では、昨年度、「いきいきプラン～10のきまりごと～」を作成し、職員がいきいきと働き、家庭生活や地域貢献も行う「真のワーク・ライフ・バランス」についても率先して取組を進めてくれた。大変、頼もしく思う。

- 現場の第一線で働く職員が、課題意識をもち、職場の同僚を説得し、改革の声を上げ続けることは大事である。

- 産業革命以後、技術革新が世の中を変えてきた。しかし、技術の進歩は同時に、人と人との関係を薄くしてしまう可能性もある。そのような中で、本アプリの開発においては、どのように市民の皆様の笑顔につなげるか、心が伝わるツールになるかということもきっちりと考えて進めてくれており、素晴らしい。

- 足並みをそろえるのではなく、目的と方向性を決めたら、最短で行動を起こし、目標を達成することが重要だ。このプロジェクトのメンバーには、ぜひ経験を活かし、本市の先頭を走るつもりで、引っ張っていてもらいたい。一部の人間から始めなければ何も始まらない。皆がリーダーとなって、意識改革して欲しい。

（※）「みっけ隊（美しい京を守る応援隊）」アプリ…市民と行政の協働により、スマートフォンから道路等の損傷箇所を写真や位置情報を用いて投稿できるアプリケーション

★参加メンバーからの主な声

- 市長がとても熱心に一人一人の話を聞いてくださる姿が印象的でした。また、一緒に参加したメンバーの前向きな発言も聞くことができ、とても良い刺激を受けることができました。
- 今までやってきたことや、私たちが考えている「みっけ隊」アプリの可能性について、お褒めの言葉や、更に取り組を発展させるよう御助言をいただき、励みになりました。
- 市長のお話を聞いていて、市民の皆様を強く意識されているのを改めて感じました。私自身も普段の仕事の中で、市民の皆様に、心や気持ちが伝わるよう、もう一步踏み込んだ仕事をしていきたいと思いました。
- 「最短での目標達成を目指す」という市長のお言葉を受け、スピード感を持って仕事に取り組み、本市が日本のトップランナーになれるよう、一職員として努力したいと思いました。
- 職員も市民の一人であり、市民協働を業務上で進めるだけではなく、プライベートでも地域活動やボランティアなどに積極的に参加することが大事であると気づきました。